

## 1. 活動期間

概 2024年12月3日（火）8時30分～2024年12月4日（水）16時

## 2. 活動場所

避難所：1) 珠洲市立大谷小中学校避難所：石川県珠洲市大谷町1字78番地

概 概 概 概 概 2) 珠洲市自然休養村センター避難所：石川県珠洲市馬縹町17-163-1

在宅巡回：大谷地区高屋町・大谷町周辺・高屋町第一団地

## 3. 石川県珠洲市の被害状況（12月3日14:00時点 石川県庁情報175報）

人的被害 死者：137人 うち災害関連死：40人 負傷者：重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：5,575棟 非住家被害：6,137棟

市町一次避難所：開設3か所 避難者数26人

## 4. 避難所の状況

### 【避難者数】

1) 12月3日 珠洲市立大谷小中学校避難所：登録者数19人（内1名入院中）

2) 12月4日 珠洲市自然休養村センター避難所8人

### 【避難所運営及び生活状況】

#### 1) 大谷小中学校避難所

・12月2日より応急仮設住宅入居が始まっていた。現在、大谷小中学校避難所からは、大谷町第一団地に入居予定15世帯のうちの3世帯が入居していた。珠洲市内の応急仮設住宅の水道は出ているが、飲料水として利用できるかは12月4日の検査結果待ちであった。大谷小中学校避難所の飲料水検査結果は12月10日になっているためしばらく飲料水としては利用できない状況にあった。12月3日は天候も悪く、この日の入居世帯はいなかった。また、応急仮設住宅に入居すれば、弁当の配食は中止となるため、飲料水検査が合格し、天気の良い日にゆっくりと入居する予定と言われていた方もおられた。日中避難所にいらした方は6人ぐらいだった。環境整備やトイレ掃除は、住民の方で率先して行われていた。石川県職員の派遣は11月30日で終了していた。

#### 2) 珠洲市自然休養村センター避難所

・避難所の入居者は不在であった。在宅者1人が洗濯に来られており様子を伺ったところ、入居者は仕事に行き不在とのことであった。

## 5. 応急仮設住宅の状況

#### 1) 大谷町第一団地（大谷小中学校グラウンド）

・入居世帯は数名であった。グラウンドが工事中であり、その合間を住民の車が出入りしていた。

#### 2) 高屋町第一団地（高屋漁港）

・漁港に面して、応急仮設住宅の2列が並行に立地されており、1列目の建物には、海風が強くなり、玄関を開けると屋内に直接吹き込む環境であった。

## 6. 支援活動の実際

### 【避難所支援】

#### 1) 大谷小中学校避難所

- ・避難所におられる方全員の体調確認を行った。11月21日に発症した新型コロナウイルス陽性者は、症状が安定して退所していた。住民より、内服管理方法の相談を受け、飲み忘れを防ぐ方法を一緒に検討した。また、12月5日(木)14:00~15:30の大谷診療所受診の案内を実施した。6名の方が診察相談を受ける予定となった。

#### 2) 珠洲市自然休養村センター避難所

- ・避難所にいた1名の方に、大谷診療所の開催案内を行い、不在の方々にも御伝えして下さるようお願いした。

### 【在宅避難者支援】12月3日(火)9:30~11:45

- ・ささえ愛センター2名の方と、大谷地区での水害で罹災証明を提出した在宅者の訪問を実施した。

時間内で、11戸中6戸の訪問を行い、2戸が在宅であった。1戸は、訪問途中の道路状況が悪く途中路肩が落屑しているところもあった。70代夫婦が犬と暮らしていた。みなし仮設から今月戻り、雪が降れば、またみなし仮設に戻る予定と言われていた。生活は、山水を使用しており暖房等も問題はなかった。しかし、冬の除雪がどうなるのか気にされていたため、市役所に確認することなどをお勧めした。もう1戸は、高齢者1名が在宅していた。同居者は3人であり留守番をしていた。練炭のこたつで過ごしていた。デイサービスを利用しており、ささえ愛センターの1名が顔見知りであり、住民からの話は途絶えることがなかった。

### 【応急仮設住宅支援】

- ・高屋町第一団地(高屋漁港)12月4日(木)10:30~11:45

高屋町第一団地(高屋漁港)29戸の訪問を実施した。在宅者は6戸であり、在宅者全員に体調不良者はおられなかったが、12月5日(木)に大谷診療所で診察があり健康相談等をお勧めした。

### 【地域コミュニティ支援：お茶会】

- 1) 大谷小中学校避難所 12月3日(火)13:00~15:00

- 2) 第一宝立団地集会場 12月4日(水)13:00~15:00

「歌とリズム体操、じゃんけん新聞とり等ゲーム」をチーム対抗や個人対抗で行った。参加者全員と、個人戦優勝者、準優勝者にプレゼントをお渡しした。参加された方々より「楽しかった。笑い疲れた」等の感想をいただいた。

- 1) 大谷小中学校避難所:10名参加(避難所・団地・在宅者)

他のボランティア支援として、北海道からの食材ボランティアスタッフの生歌やピースボート災害支援センターからのスイーツの差し入れも加わり、学会が企画したゲームとその後のスイーツを食べながら生歌を聞き、懇談するなど「動と静」のお茶会となった。

- 2) 第一宝立団地集会場:13名参加

2019年に水害被害に遭われた宮城県丸森町のご夫婦より、地元のお茶会が発足となった編み物の作品の提供があった。マフラーやひざ掛け、ストール等、参加者全員が2~3点持ち帰られるほどあり喜ばれていた。また、丸森町の被害から編み物作品に至る経過などが話され参加者は水害への備えについて考えていた。その後お茶会を実施した。ゲームでは、普段控えめな方が素早い動きをして優

勝し、皆が驚くなど拍手で称え合う場面も見られた。

## 7. 支援活動を通しての所感と課題

### 【避難所支援】

現在、避難所生活では生活リズムが確立されていると思われるが、今後、避難所から退所された方が新しい環境の変化により健康に影響を及ぼすことが危惧される。また、冬季間の道路状況により食材の入手が困難な地域での不安も大きいと思われる。

### 【在宅避難者支援】

在宅者は現在山水を使用して生活しているが、冬季間になると現在の生活を継続することが難しいと危惧していた。また、日中、一人で過ごす高齢者もあり、転倒しても気づいてくれる人がいないなどが考えられるため、今後継続した見守り支援が必要と思われる。

### 【地域コミュニティ支援】

今回のお茶会のゲームはチームで競う内容であり、チーム戦だけでなく個人戦でも同じチームのメンバーが応援するなどしていた。このことにより同じチームの連帯感が生まれたように見受けられた。参加者が交流を通し連帯感が生まれるように継続した支援の重要性を実感した。

## 8. 様子（写真掲載の許可あり）



写真1 大谷町第一団地の入り口  
入居が始まり、工事車両の合間を、  
車が通り荷物を運ぶ



写真2 高屋町第一団地  
海風が正面から吹き付ける



写真3  
水害を受けた方の在宅訪問



写真4 宝立地区お茶会の様子  
チーム対抗「洗濯ばさみでコップ  
タワー作り」  
一瞬の差で勝負が決まる



写真5 大谷地区お茶会  
クリスマスプレゼントにお隣さん  
とニコリ笑顔



写真6 宝立地区お茶会  
ゲームで優勝し、皆さまの  
拍手とバッグをいただき  
思わず笑顔